



学びの個別最適化 ④



「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念が、「個別最適な学び」ですが、これを教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」です。

でも、なぜそれができていないか？
もしかすると、教育体制根本に関わる大きな問題点がそこにあるのかもしれません。

「20世紀の学習者に求められたもの」というテーマのインドで作られた動画の訳文を紹介します。

自分達が受けている教育制度に何か問題がある、という感情が高まっています。では、一体何が問題なのでしょう？ 私たち大人は、「実社会」の準備のために子どもたちを学校に通わせる訳ですが、この「実社会」、非常に速いスピードで日々変化しています。しかしながら、学校制度そのものは何百年の間、さほど大きく中身が変わっていません。実際に、世界の多くのソートリーダー（思想的指導者）達は現代の教育制度が産業化時代に、主に工場労働者を量産するために設計されたものであると同意しています。そして、この産業化時代の「大量生産」と「質量制限」の考え方は、まだ学校内に根強く残っています。

■問題点1 【産業化時代の価値観】

私たちは、子どもたちをひと束にして教育し、チャイムを鳴らして子どもたちの生活を支配します。一日中、生徒たちは、ただひたすら指示に従います。「着席！」「教科書を取り出して」「30ページを開いて」「質問3をやりなさい」「お喋りはやめなさい」と言った具合に。学校では、言われた通りにすると褒められます。これはまさしく産業化時代の価値観で、工場労働者にとって本当に重要なものでした。労働者にとっての成功は、指示に従い言われたことを正確に行えるかにかかっていたからです。しかし、今日の世界で、ただ指示に従っているだけでどこまで成功できるでしょうか現代世界では、創造的で、自分のアイデアを相手に伝えるコミュニケーション力を持ち、他者と協力することができる人々に価値が置かれています。残念ながら、産業化時代の価値観に基づいた教育制度では子どもたちがそのような技能を育くむ機会は与えられません。

■問題点2 【自律性の欠如（および制御）】

学校では、子どもたちは自律と制御が完全に欠如している状態を経験しています。自分の生活は、システムによって分刻みに緊密に管理されています。しかし実社会においては、重要な仕事をしている人は自分の時間を自分で管理しています。自分が何をすべきか、そしていつそれを行うべきかを自分自身の意思で決定しています。けれども、学校での生活は実社会とは非常に異なって見えます。学校のシステムは、「自分の人生を自分自身に任せてはもらえない」という危険なメッセージを子どもたちに送信しています。子どもたちは、主導権を握り自分の人生を最大限に活用する代わりに、敷かれているものに従わなければなりません。専門家は、子どもには「自律」が非常に重要だと考えています。子どもたちが学校で退屈し、やる気を失ってしまうのは当然のことなのです。分刻みで何をすべきかの指示を与えられ続けたら、どのように感じるか大人のあなたでも想像がつくでしょう。

■問題点3 【ごまかしの学び】

今日の学校で行なわれている学習のほとんどが記憶と丸暗記学習に依存していて、真の学びではありません。現行の学校システムでは、全ての子どもが知っておくべき知識を集合体にして定め、数ヶ月ごとにテストを介してどれくらいの知識が保持されているかを測定しています。私たちは、そのような学習が本物ではないことを知っています。なぜなら試験の翌日には学習した内容のほとんどが頭から消えているからです。学びとは、本来深く、真正であるものです。単なる暗記や記憶以上のものです。しかしながら、相変わらず暗記力や記憶力のみが測定され、そしてまた、私たちは点数のみを評価しています。結果、生徒、教師、保護者にとって非常に不健全な文化を生み出しました。子どもたちは、多大な時間を授業時間に費やしすぐに忘れてしまうことになる無駄な事柄を徹夜で覚えるのです。

